

令和5年度第1回館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 結果概要

1 日時

令和5年10月12日（木）午後3時～午後4時15分

2 場所

館林市役所5階研修室

3 出席者

【検証委員】7名

竹内弘佳 委員（館林公共職業安定所）

菅野敏彦 委員（神谷労務管理事務所）

堀口秀樹 委員（邑楽館林農業協同組合）

袴田佳徳 委員（東武鉄道）

今泉始宏 委員（館林信用金庫）

桜井和幸 委員（群馬銀行）

関 修也 委員（ケーブルテレビ株式会社）

※神谷晋太郎 委員（館林商工会議所青年部）は欠席

【事務局】4名

政策企画部長、企画課長、政策推進係長、担当

4 内容

総合戦略の検証について

(1) 事務局説明

- ・ 第2期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和4年度実績報告について
- ・ 総合戦略関連事業に係る令和4年度事業評価について
- ・ 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）令和4年度実績について

(2) 意見交換

5 議事概要

(1) 事務局説明

【第2期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和4年度実績報告について】

（事務局より資料内容及び事前質問への回答について説明）

⇒ 委員より質問等なし

【総合戦略関連事業に係る令和4年度事業評価について】

(事務局より資料内容及び事前質問への回答について説明)

[委員]

資料2の記載方法について、過去（前年・前々年など）の評価も記載されていると、評価の推移や流れがより分かると思う。

[事務局]

- ・ 貴重なご意見感謝する。適宜反映させていきたい。
- ・ なお、別添資料で詳細なグラフ等も用意してあるので、ご参照いただきたい。

【地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）令和4年度実績について】

(事務局より資料内容について説明)

⇒ 委員より質問等なし

(2) 意見交換

(事務局より資料内容及び事前質問への回答について説明)

[委員]

館林市は産婦人科医院が少ないと感じるので、難しいとは思いますが、誘致等を推進する必要があると考える。

[事務局]

- ・ 数年前に産婦人科医の招聘に取り組んだことがあるが、「産婦人科医の絶対数の減少」や、「一度に数人の産婦人科医の招聘の必要があること」などから、非常にハードルの高いものであった。
- ・ そのような状況もあり、「地域医療」として、佐野や太田など近隣に協力をいただく取組を進めているところである。
- ・ 合計特殊出生率に関して、みどり市が高い理由が正直分からないところである。産婦人科も1つしかない。桐生市とみどり市が、地理的には同じ地域であると思うが、この差が生まれる理由が分からないので、今後分析を進めたい。

[委員]

- ・ 子育て施策に関して、幼稚園・保育園や、学童保育が充実していないと若い世代はその地域に住まないと思う。館林市はこども園化も他自治体と比較すると遅れている部分もあり、積極的に推進すべきである。
- ・ 例えば、自分が住んでいる地域（栃木県下野市）においては、幼稚園が学童保育を行っている例（放課後、小学校に幼稚園バスが迎えに来る）もあり、館林市においても参考となるかと思う。

[事務局]

他自治体においては、教育委員会が幼稚園の運営、子ども担当部署が保育園の運

営を行っている例も多いが、本市においては「こども局」を設置し一体的に取り組んでいるところであり、今後、引き続き取組を進めていきたいと考えている。

[委員]

公共交通施策について、行政として、バス路線の見直しや、鉄道を軸とした交通網の整備などを行っており、利用者目線でより使いやすい公共交通となるよう、こちらも尽力していきたい。

[事務局]

鉄道とバスが効果的に組み合わせられた、より使いやすい交通網の整備を今後も進めていきたい。

[委員]

館林市は、「住みよさランキング」が比較的高い（271位）と思うが。特に力を入れている施策はどのようなものか。

[事務局]

「住みよさランキング」は「安心度」、「利便度」、「快適度」、「富裕度」の4視点20データを用いて算出しているが、その中で最も良いものは「利便性」である。一方、悪いものは「安心度」であり、その点で改善が求められるところである。

[委員]

- ・ 現状、高校卒業後に大学進学が多くなっており、その分高卒の就職が少なくなっていることに加え、東京圏等に行ったきり戻ってこないことも多い。
- ・ どうすれば戻せるかということが課題だと思うが、高校生向けのガイダンスの実施なども重要だが、それだけでは十分ではなく、地元の企業で働きたくなる、会社の魅力を伝えるような幼少期からの教育・意識付けが必要だと考える。

[事務局]

勤労教育の重要性を再認識したところである。

[委員]

外国人人材の確保が今後重要になってくると思うが、館林市においても外国人人材の管理団体が増えており、行政でうまく企業間のマッチングなどを進められれば良いと思う。

[事務局]

- ・ 館林市でも外国人の割合が増えているところであり、住基データにおいて、10年前は2.1%だったが、現在は4.3%まで増えている。
- ・ 労働者が減っている中で、外国人人材の確保が課題であり、館林市では日本語検定の補助も行っているが、企業間のマッチングの取組を進めることも必要だと感じた。
- ・ 今年の8月に、外国人留学生のインターンシップを受け入れたところであるが、そのインターンシップ学生から、本市の人口減少対策に関し、「日本語学

校」の設置等により、外国人が長く住めるような支援を行うことが重要と提言を受けたところである。

[委員]

- ・ 外国人の多い大泉町も館林職業安定所の管轄内であるが、実態としては、安定所の紹介で就職する外国人は非常に少なく、派遣会社の紹介で就職する例が多い状況である。
- ・ また、人材不足でありながらも外国人を欲しがらない企業も多く、その理由としては「日本語が話せないこと」が主であり、日本語の修得がネックとなっているようである。(家でも母国語で話しており日本語を使わない)
- ・ 安定所として、外国人に対し、日本語習得のカリキュラムを進めているが、断られることも少なくなく、外国人の意識を変えていく（日本語の修得が必要だと思わせる）ことも必要だと思う。

[委員]

- ・ 東毛地域の特徴として、立地的に他県と隣接しており、勤務者も栃木県や埼玉県に住んでいる方が多く、よく言えば便利だが、群馬県としての意識が薄いことが挙げられ、他県の行政サービスと比べられることが多いと思うので、検証が必要だと考える。
- ・ また、隣接することにより、地域の魅力についても比べられると思うので、負けない魅力が必要だと思う。

[事務局]

館林市は県境にあり、買い物などにおいても、前橋より大宮・東京などに行く方も多いと思う。

[委員]

「創業なんでも相談会」があつて良かったとの声を、相談者からいただいたこともあり、また金融機関もゼロから顧客を探すのも難しく、こういう機会を通じて行政と金融機関の連携がより図れれば良いと思う。

[委員]

創業者について、金融機関としても、前段階で創業のための知識がある状態で相談に来ていただけるとありがたい。

[委員]

相談会参加者が、他地域で創業してしまうことはないのか。

[事務局]

あくまで、館林市内で創業を目指す方を対象としている。

以上